

製品名: HPA1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12190**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	62kDa

抗原情報

遺伝子名	HPSE
別名	HPSE; HEP; HPA; HPA1; HPR1; HPSE1; HSE1; Heparanase; Endo-glucuronidase; Heparanase-1; Hpa1
遺伝子 ID	10855.0
SwissProt ID	Q9Y251
免疫原	抗血清はヒト HPSE の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 241-290

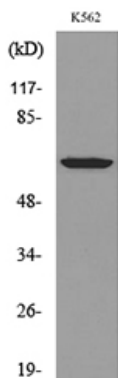
背景

ヘパラン硫酸プロテオグリカン、基底膜および細胞外マトリックスの主要成分です。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ヘパラン硫酸プロテオグリカンを切断する酵素であり、細胞外マトリックスのリモデリングを通じて細胞の移動を可能にします。さらに、この切断により、細胞外マトリックスから生理活性分子が放出されます。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが分かっています。[RefSeq 提供、2011年9月]、酵素制御: EDTA、ラミナリン硫酸、およびヘパリンおよびスルファミンによって阻害され、カルシウムおよびマグネシウムによって活性化されます。機能: 細胞表面および細胞外マトリックス分解酵素であるエンドグリコシダーゼ。ヘパラン硫酸プロテオグリカン (HSPG) をヘパラン硫酸側鎖とコアプロテオグリカンに切断します。白血球および腫瘍細胞株の血管外漏出にも関与しています。転移や血管新生に寄与することから、抗がん剤の潜在的標的と考えられている。PTM:N-グリコシル化。50 kDa サブユニットのグリコシル化は、その溶解性に必須であると考えられる。PTM:タンパク質分解処理。65 kDa 型の切断により、8 kDa および 50 kDa のリンカーペプチドが生成されます。活性型である 8/50 kDa ヘテロダイマーは分解に対して耐性があります。リンカーペプチドの完全な除去は、酵素の完全活性化の前提条件であると考えられる。類似性:グリコシルヒドロラーゼ 79 ファミリーに属します。細胞内局在:分泌され、内部移行し、プロヘパラーナーゼとして後期エンドソーム/リソソームに輸送されます。リソソームでは、活性型であるヘパラーナーゼに処理されます。プロヘパラーナーゼの取り込みまたは内部移行は HSPG によって媒介される。ヘパリンは競合因子として働き、プロヘパラーナーゼを細胞外培地に保持すると考えられる。サブユニット: 活性ヘテロダイマーは、タンパク質分解産物である 8kDa および 50kDa のサブユニットから構成される。組織特異性: 胎盤および脾臓で高発現し、リンパ節、胸腺、末梢血白血球、骨髄、内皮細胞、胎児肝、腫瘍組織で弱発現する。、

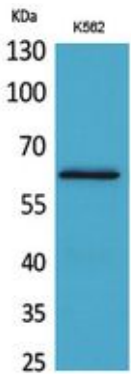
研究分野

グリコサミノグリカンの分解;

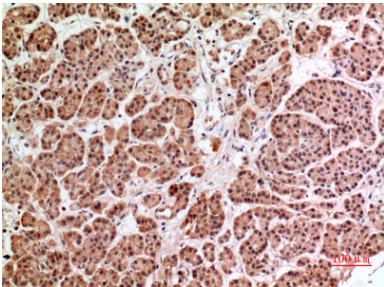
画像データ



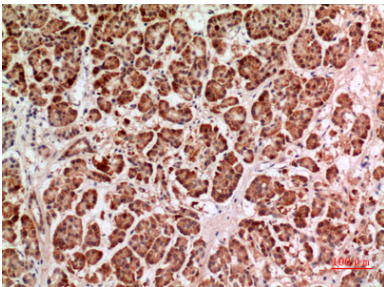
HPSE 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウエスタン プロット分析。



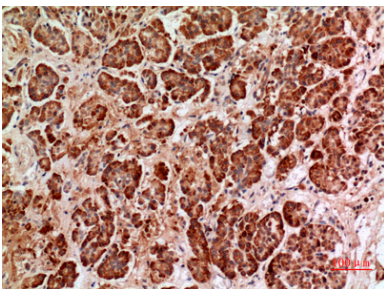
HPA1 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



パラフィン包埋ヒト臍臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト臍臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト臍臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された